



『日本についての印象をお話します』

シュ キツ
朱 屹〔中国上海市 出身〕

皆さん、初めまして。私は去年の 12 月に上海から参りました。

私は日本に対して、とてもよい印象を持っています。日本は美しい国で、自然や文化がとても魅力的です。

まず、日本の自然が素晴らしいです。春には桜が咲きます。桜の花はとてもきれいで、特に花見の時期が楽しみです。秋になると、紅葉が見られます。山や公園が赤や黄色に染まってとても美しいです。

次に、日本の文化に興味があります。日本には伝統的な芸術がたくさんあります。例えば、茶道や書道、和食があります。特に和食が好きです。寿司やラーメンは私のお気に入りです。新鮮な食材を使った料理は、本当においしいです。

また、日本の人々も印象的です。みんな親切で礼儀正しいです。店員さんや駅員さんが優しく対応してくれるので、とても安心します。

総じて、日本は自然や文化人々の優しさがある素晴らしい国です。これからもっと色々なことを体験したいと思います。

以上です。ありがとうございました。





『わたしの長野ひとり旅』

バラクマラン ゴパル [インド 出身]

おはようございます。

私はバラクマラン ゴパルと申します。私はインドに住んでいた時も一人旅をしたことがありません。でも、去年の8月に長野県に一人旅をしました。朝起きて、バックパックしてテントを持って出発しました。東京駅から長野駅まで北陸新幹線に乗りました。

長野駅で乗り換えて松本駅に着きました。時計博物館と松本城を観光しました。時計博物館にはいろいろな時計がありました。びっくりしました。興味がある人はぜひ行ってみてください。松本城には昔の服や兵器がありました。

大王わさび農場に行くために、もう一度松本駅に行きました。そこで、ひとりのおじいさんに出会いました。優しい人です。いろいろなことを話しました。おじいさんが電車を降りるとき、「今、プレゼントできるものをもってないから」といって、私に1000円くれました。これを「お饞別」というそうです。私はびっくりしました。

穂高駅に降りました。その駅からわさび農場まで遠いので、私はレンタル自転車を借りました。自転車に乗っている時、その道の左側と右側は田植えのあとで緑すぎでした。風はとても気持ちよくて私の故郷にいる感じがしました。そのわさび農場を見物しました。そこでわさびのアイスクリームも買って食べました。私はキャンプする予定でしたから、松本駅に戻り、キャンプ場に電話して予約しました。キャンプ場の人は「8時までに来てください」と言いました。その時6時半です。私はすぐに電車に乗りました。その電車の中で日本人の兄弟と出会いました。

日本の生活について話しました。お兄さんに泊まるキャンプ場について聞かれました。私が答えるとお兄さんはビックリしていました。その近くにキャンプ場はないと言われました。私は不安になりました。弟と私は一緒に駅に降りました。降りる時、お兄さんは「弟が助けてくれる」と言いました。駅の近くで弟の友達が車で待っていました。友達もその場所に、キャンプ場はないとビックリしていました。でもその友達は「車で送るよ」と言いました。

はじめ、私は「歩いて行く」と言いました。その時、彼たちは「田舎を夜歩くのは、東京より危ない」と言いました。考えた後で車でそのキャンプ場に送ってもらいました。親切な人達です。彼達はキャンプ場を見てビックリして安心しました。私もです。彼達はキャンプ場の人に、この場所と私について話しました。

別れるとき彼達に、「気をつけてね」と言われました。私はそのキャンプ場で川の音や夜の音を聞いてキャンプしました。良い旅でした。

機会があればみなさんもぜひ一人旅してみてください。





『日本での新しい発見と感動』

ゾウ ウェンドン
邹 文栋〔中国広東省 出身〕

皆さん、こんにちは！私は邹文栋と申します。今年 4 月に中国から日本に留学に来ました。今日は、日本での新しい発見と感動したことをお話しします。

最初に日本に来たとき、正直に言ってかなり大変でした。東京に到着した日はちょうど大雨で、23 キロのスーツケースを二つ持って階段を何度も上り下りしなければなりません。さらに、日本の厳しいゴミの分別ルールがわからず、しばらくはコンビニのサンドイッチばかり食べていました。一瞬、「帰国しようかな」と思いましたが、時間が経つにつれ、日本での生活に徐々に慣れ、たくさんの素敵な体験ができました。

その一つが、私の大好きな野球です。子供の頃、アニメ「メジャー」を見て、主人公の茂野吾郎が全力で戦う姿に感動し、野球に夢中になりました。そして、昨年の WBC で侍ジャパンの活躍を見てからは、日本のプロ野球にも興味を持つようになりました。初めて神宮球場で試合を観戦した時、スタメン発表の応援曲が流れる瞬間、会場の熱気と迫りに圧倒されました。中でも、村上宗隆選手が一番のお気に入りです。彼の圧倒的な実力と繊細な心に共感し、今では応援歌も覚えて、すっかりスワローズのファンになりました。

また、日本に来て新たな趣味ができました。それは「花見」です。四季折々の花々を楽しむことで、日常の中で自然の美しさを再発見しました。桜、菖蒲、紫陽花、蓮、向日葵と、季節ごとに違った花を楽しむことができます。特に水元公園や葛西臨海公園でのんびりと過ごす時間は格別です。最近では、家の近くの荒川河川敷で夕日を見ながら、広くて静かな日本の空に心が癒されます。

お祭りも私にとって忘れられない体験の一つです。家の近くで行われた例大祭では、初めて神楽を目にしました。巫女神楽の荘厳さ、獅子神楽の陽気さに触れ、心が動かされました。また、盆踊り大会にも参加しました。最初はただ見ているだけでしたが、次第に自分も踊る楽しさに目覚め、地元の人々との交流を楽しみました。特に印象に残っているのは、太鼓を演奏していた小さな女の子です。彼女はまだ十歳くらいなのに、太鼓の腕前は素晴らしく、私はすっかり彼女のファンになってしまいました。

最初は戸惑うことの多い日々でしたが、今では日本での生活に慣れ、多くの素晴らしい思い出を作ることができました。これからも、日本でさらに多くのことを学び、経験していきたいと思っています。

以上です。ありがとうございました。





『異文化体験_日本で驚いたこと』
カルティケヤン ヴェンガダラマニ〔インド 出身〕

皆さん、こんにちは! カルティケヤンと申します。

葛飾区の青戸に住んでいます、日本に住み始めて二年になりました。日本語教室に参加して 1 年になりました。日本の生活はとっても魅力的です。異文化体験日本で驚いたことについて話そうと思います。

ひとつめは歓迎会のはなしです。日本に来て会社の歓迎会に参加しました。その時社長に「日本にきて何か可笑しいことがありましたか。」と質問されました。あの時は「おかし」はお菓子のまちおかという店の名前からお菓子の意味は甘いものだとは分かって覚えていました。

質問を聞いて直ぐに日本で味見をしてみた色々なお菓子について説明しました。3分後、社長から「お菓子じゃなくて可笑しいですよ。お菓子と可笑しいは違うよ。」と言われました。「可笑しい」の意味を調べて違うことがわかった後、びっくりしてちょっと恥ずかしいきもちでした。おかげで、一つ言葉を忘れないように学びました。

ふたつめは地震の話です。インドではあまり地震にあった経験はありません。はじめて日本で仕事のため、2 か月間働いていたときです。その時、私のインドの上司と一人の先輩もいっしょにきました。上司は何回も日本に来て日本の文化についてもよく知っています。

ある日仕事しているとき私の上の階で何回もおおきな音が聞こえました。棚が倒れたのかと思いました。足も少し揺れた気がしました。反対の人や、どの顔を見ても日本の人は顔に変化がありませんでした。やっぱり地震だと思って、私と先輩は真ん中にある上司の顔を見ないで、おたがいに顔を見ました。わたしたちは二人とも顔が驚いているのを確認しました。地震でも日本の人たちは何にもないような顔をしているのを見てわたしはびっくりしました。

他にも色々な経験に会ってまだ勉強中です。

これでスピーチは以上です。皆さんありがとうございました。





『音楽に翼を！』

トウ キンシ
董 勤之〔中国上海市 出身〕

皆さん、こんにちは。私は千葉大学の交換留学生で、董勤之と申します。中国の上海から来ました、今23歳です。金曜日の「いろは午前」で日本語を勉強しています。

今日は、皆さんに私の好きな日本の歌を紹介したいと思います。この歌は「翼をください」というタイトルです。皆さん聞いたことがありますか。歌える人は、是非私と一緒に歌ってください。

「今 私の 願いごとが 叶うならば 翼が欲しい
この背中に 鳥のように 白い翼 つけてください
この大空に 翼を広げ 飛んで行きたいよ
悲しみのない 自由な空へ 翼はためかせ 行きたい」

この歌は、「エヴァンゲリオン」という映画を見ている時聞いた曲です。その時、映像と合わせて、私に大きな衝撃を与えてくれました。シンプルな歌詞ながらも、強大なエネルギーを放っているのです。この曲が、私が学んだ最初の日本語の歌です。これから、私は二次元であり、日本語の興味は日本のアニメ文化から生まれたこともわかります。そして、私は歌うことも好きで、YOASOBI、藤井風、中森明菜、Aimer など、好きな日本の歌手がたくさんいます。だから、私が日本語を学ぶ理由の1つにも、私が好きな歌手の歌を歌えるようにという願望があります。

最後に、先生方と皆さんが、生活の中で自分だけの翼を見つけて、勇敢に夢を追うことができるように願っています。ありがとうございました。





『他国の文化「日本」が私の人生に影響を与えた』 アマガランバヤル ウヌルジャルガル〔モンゴル 出身〕

日本に来る前に、私は日本語を1年間勉強しました。仕事と並行して勉強していたので、日本語が十分に学べず、とても残念でした。そのため、私は日本語を学びたいと思って日本に来ましたが、今、皆さんの前に立って、私が学んだことを共有できることをとてもうれしく思っています。また、私が日本に来た時にあらゆる面で私をサポートしてくれた父、母、そして先生たち、そして私を心からサポートし、助けてくれた日本の先生たちに感謝の意を表したいと思います。

日本に来たときは、わからないことがたくさんありました。例: 1. 電車にどうやって乗り、どうやって目的地に行くか。2. 市政で望むサービスを受けるにはどうすればよいか。3. 欲しいものを店から買うにはどうすればよいか。差し迫った問題がたくさんありました。

最初は学校の先生に手伝ってもらっていましたが、みんな自分の仕事があるので、ずっと手伝うわけにはいかないことに気づき、すべて自分でやらなければなりません。それには、日本語を上手に学ぶことでした。日本語を上手に学べば、日本文化を知ることができます。

さらに、もっと学んで日本のルールや法律に従って平和に生きていこうと思いました。

ここで、私に起こった2つの出来事と、私が理解した内容についてお話します。

1つ目は日本に来て、最初にマクドナルドで働きました。それが1月17日だったことをよく覚えています。その日、私はバイトを終えて近くの店で野菜を買って帰宅しようとしていた。当時は Google マップを使って目的地に行っていたので、何も使わずにどこにも行くことができませんでした。その日は携帯電話の電池が切れてしまい、どうやって家に帰れるかわかりませんでした。

日が落ちて真っ暗でしたが、最初は怖がらず、家が見つかるという自信がありました。かなり時間がかかりました、30分くらいだったと思います。家と職場の距離が15分だと思っていたら、それ以上の時間を過ごしていました。暗くて、私は家に帰る道がよくわかりませんでした。寒くてお腹も空いていましたが、怖かったので気にしませんでした。

そこで松葉杖をついた日本人のおばあちゃんに会いました。当時私の言語能力は貧弱でしたが、「私はどこですか、家がどこにあるのかわかりません、助けてください」という3つの文をうまく言うことができました。するとおばあちゃんは私が道に迷っていることを理解したらしく、私の知らない日本語で話しかけ、手でカードの形を見せてくれました。すぐにそれが ziro カードだと気づき、カバンから取り出しました。おばあちゃんはそのカードを見て私を連れて行きました。

20分ほど走って自宅の玄関に到着しました。最も素晴らしかったのは、彼女が私を家に連れて行ってくれたことです。今でもとても幸せです。それで私はおばあちゃんにとっても感謝して家に帰りました。その夜は全く眠れませんでした。だって、おばあちゃんは心配していたんです。寒いですか？それからずっと携帯を充電して持ち歩くようになりました。

2つ目は私はかばんを忘れて電車から降りました。仕事が終わって電車で帰宅していました。その時、私は疲れて眠ってしまいました。でも、目が覚めたら綾瀬駅に来ていて…もう降りなければと思い、ドアが開まる前に飛び降りました。ラックに置いたカバンを忘れて無事着陸。

家に向かって歩いていると、手が空っぽになり、背中が軽くなったように感じました。何？カバンを忘れたのでとても悲しくて怖かったです。そこで、「電車の中で忘れ物をした場合は、まず駅員さんに言いましょ」という先生の教える思い出しました。

私はすぐに駅員に言いました。そして、忘れ物や捨てられた物が保管されている場所があります。彼らは私に名刺のような紙を渡し、「この住所に連絡してください」と言いました。スタッフのフレンドリーな対応にすぐにリフレッシュできました。

そこで私はその番号に電話して、バッグの色、形、中身についての情報を聞き、「バッグが見つかり次第、折り返しご連絡します」と言いました。そして7日後に荷物が届きました。一番驚いたのは、洗っていなかったフードボウルを洗ってくれて、財布の中のお金を専用の箱に入れて、私に取りに行くまで保管してくれたことです。渡すときは、1枚ずつ見せて、1円も欠かさずに渡してくれました。本当に驚きました。それ以来、私は日本は平和で美しい国だと信じるようになりました。

このように思い出に残ること、面白いこと、冒険的なことをたくさん話したいのですが、時間がないのでここでやめておきます。

上記の出来事から私は何を結論付けましたか？言い換えれば、日本には親切で思いやりのある人々がいると感じました。誰もがそうあるべきだと理解していました。

また、優しさをもって人を助けるべきだと気づきました。私はとても臆病で恥ずかしがり屋でした。日本に来て日本語を熱心に学んだ後、私は「より自信がつき、より野心的になり、より勇気が湧いてきた」と感じています。これもひとえに素晴らしい方々のおかげだと思っています。

日本人はとても早く起きて、その日の仕事を終わらせようとします。これは、幼い頃からの教育制度にもよく反映されており、子どもの頃から仕事に向けて教育し、立派な人間にすることに特別な注意が払われています。

自分たちで作った野菜やお米を食べています。また、海洋動物の肉は日常的に使用されており、人体に非常に良い影響を与えていることも様々な研究で読みました。

結論として、私は日本の文化、積極的な挨拶、フレンドリーさ、親切さ、日本人の明るさ、常に笑顔、そして他の人に迷惑をかけないようにするべきことを知っている素晴らしい性格がとても気に入りました。

日本人にとっては当たり前のことかもしれませんが、外国人にとっては学びたいことなのです。このような人々がいれば、必ず国は発展し、長生きできるでしょう。私としては、この国にできる限り貢献し、共に学び、共に発展していきたいと思っています。

ご清聴ありがとうございました。





『自分の一番好きなアニメについて』

張 珩〔中国山東省 出身〕

皆さん、こんにちは。今日は私が一番好きな日本のアニメ「クラナド」についてお話したいと思います。私のスピーチを聞いて、もし皆さんもこのアニメを観たくなってくれたら、とても嬉しいです。

「クラナド」は同名のゲームを原作としたアニメです。物語は、普通の高校生、主人公 岡崎朋也とヒロイン古河渚の成長を描いています。最初は日常的な高校生活のように見えますが、物語が進むにつれて、登場人物たちの運命や感情に引き込まれていきます。

この作品の最大の魅力は、キャラクターの描写にあります。主人公の岡崎朋也は、古河渚と出会い、無気力だった自分から成長していきます。

岡崎朋也と古河渚の関係は非常に深いです。最初は友達のような関係でしたが、物語が進むにつれて、お互いに対する理解と愛情が深まります。最終的には、二人は結婚し、家族を築くこととなります。彼らの絆は物語の中心テーマの一つであり、愛や支え合いの重要性を強調しています。

そして、第二部では、渚が出産の時に亡くなることで、大きな悲しい出来事が起こりました。物語の中で、私に一番印象に残ったのは朋也は娘の汐のために全力を尽くし、彼女を支えるお父さんとしての姿を見せます。汐が病気になった時、朋也はすごく辛い思いをしながらも、彼女に希望を持たせようと頑張ります。汐の無邪気な笑顔を守るために、朋也はどんな困難も乗り越えようとする姿が、親の愛の深さをよく表しています。

この作品は、人生の喜びや悲しみをリアルに描き、どんなに辛い状況でも愛や希望があれば前に進めることを教えてくれます。

私もこの物語から「どんなに辛い時でも、愛や支えがあれば乗り越えられる」ということを学びました。私の人生でも、友達や家族の支えが大きな力になっています。

ぜひ、皆さんも「クラナド」を観てみてください。この作品が持つ温かさと感動は、きっとあなたの心に響くことでしょう。

ご清聴ありがとうございます。





『私が注目した日本人たち』

チャンドバシャ カウザーアマル [インド 出身]

みなさんこんにちは。カウザーアマルと申します。出身はインドです。

今住んでいるところは江東区の亀戸です。今日は、「私が注目した日本人たち」について話したいです。

一番目に交通ルールを守る人たちです。日本へ来て 2 年間で終わりました。今まで交通ルールを守らない人を見たことがありません。会社に行く時小学生を見ます。あの小学生たちは黄色とか青い色の帽子をかぶって行きます。そして道路を横断する時手を上げて、黄色では止まれと書いたフラグを持って横断します。道路を横断する時信号が変わっても、運転手は人々が横断するまで待ちます。同様に、歩行者もできるだけ早く渡ろうとします。

二番目は時間厳守する人たちです。時間厳守は時間を守ることです。日本人はよく時間を守ります。会議とかみんなで会う時、予定の時間に間に合います。

三番目は駅員さんです。日本の電車は便利です。いつも時間に間に合うし、乗ることができる電車が多いです。車いすを使っている人たちが乗るのを見たことがあります。駅員さんが乗る時と降りる時はスライダーを置いて助けています。これを見るとわたしはこころから感謝の気持ちになります。





『日本に来て1ヶ月半の総括』

程 ^{テン エンエイ} 婉莹〔中国広東省 出身〕

皆さん、こんにちは。程 婉莹と申します。今は千葉大学の交換留学生です。中国から日本に来て、1ヶ月半になりました。中国の広東省から来たので、広東語も話せます。

最初、日本に来たときはやっぱり日本人が何を言っているのか分からなくて、すごく早口で「ザーザー」と聞こえました。「え、もう終わりましたか？」そんな感じがよくありました。でも、ひと月以上日本語を勉強したおかげで、中国にいた時に比べたらだいぶ聞き取れるようになりました。

私はアニメ・漫画が大好きで日本に来る前は、ネットで日本語を独学で勉強をしました。最近「魔法少女まどか」を読み返しているところです。まどかとほむらの絆に感動しています。もちろん、人気漫画「鬼滅の刃」や「スパイファミリー」といったヒット作も観ていました。

また、私は日本のサブカルチャーに興味があり、今日のスピーチ大会の服装もサブカルチャー風です。

日本語教室でたくさんの知識を学びました。新しい友達もたくさん出来ました。先生も根気よく教えてくれて、本当に楽しいです。日本語は簡単ではないが、たくさん勉強して、日本語で皆さんともっと交流が出来たらいいなと思いました。

どうぞよろしく申し上げます。ありがとうございました。





『日本での体験を振り返り、私がどう変わったか』

ヨウ マツ
楊 沫〔中国北京市 出身〕

今日は、日本での半年間の留学と一年半の仕事を経て、自分がどういうところが変わったかについて、お話ししたいと思います。

まず最初が変わったのは、自己管理能力です。日本では授業やアルバイトの時間がとてもきっちりでいて、何をいつまでにやるかを自分できちんと計画する必要がありました。最初は慣れなくて、締め切りギリギリになって焦ることが多かったんですが、今では自然で優先順位を考えて動けるようになりました。自分が成長したなと感じています。

次に変わったのは、ルール意識が強くなったことです。

日本はルールを守ることが非常に大切な社会で、例えば電車に乗るときに列をきちんと作ったり、信号を守ったり、ゴミの分別も細かく行う習慣があります。正直、最初はそれに慣れるのに少し時間がかかりましたが、今では自然にルールを守ることができるようになりました。

そして、私は「自己満足」が「競争心」よりも大切だと感じるようになりました。

以前の私は、常に周りの人と自分を比べて、他の人よりも頑張っていないとか、自分が可愛くない、お金を持っていないと感じて焦ったり落ち込んだりしていました。しかし、ある時ふと気づいたのです。他人は自分と違う人生を歩んできたのだから、同じことをやっても違いが出るのは当然だと。そして、逆に私にも他の人に羨ましく思ってもらえるところがあることに気づきました。例えば、私も積極的に登山活動を企画し、日本の百名山を目標に多くの仲間と出会いました。

また、登山やハイキングをきっかけに最近ではマラソンにも挑戦し、ランニングが好きになりました。自分がやりたいことや、自分にとっての幸せに目を向け、自分のペースで進むことが大事だと思うようになりました。

ということで、今日は「日本に来て自分がどのように成長したか」についてお話ししました。

さて、ここまで「自分が成長したこと」についてお話ししましたが、実は「全然上達していない」こともあります。

小さい頃から中国の家庭で「何でも一人で解決する」よう教育されてきたため、困ったときに周囲に助けを求めることがまだまだ苦手です。しかし、日本で生活する中で、外国人として困る場面も多々あり、そんなときには無理に強がるのではなく、友人たちから前向きなサポートを受けました。

登山を楽しむだけでなく、悩んだときには励ましやアドバイスをもらえることも、大きな支えになっています。

こうした他人の助けを通じて、「人に頼ること」についても少しずつ学んでいます。

これからも頑張っていきたいと思います。

最後までご清聴いただき、ありがとうございます。





『私と日本語の勉強』
ブラウン レイオン [ジャマイカ 出身]

みなさん、こんにちは

私の名前は零音です。今日は、私が日本語を勉強し始めた理由について話したいと思います。12 年前はじめて日本に来た時、私は全く日本語が分かりませんでした。もちろん、ひらがなとかカタカナとかで自己紹介くらいはできましたが、それ以外、私にとって、日本語は全く不思議な言葉でした。

しかし、以前新潟県に住んでいた時、自分の人生の方向が変わりました。当時は、友達がいなかったため、友達を作りたいと思いましたが、友達を作るには、日本語を勉強する必要があります。そこで、日本語の教科書を使い、勉強し始めましたが、とても難しかったです。私の母国語は英語なので、すべてのことが違います。発音や新しい語彙や語句など新しく覚えることが多くて、かなり大変でした。その上、文章の構造がとても違いますので、間違った表現を使ってしまうことも多かったです。ある時、友達は私に何を料理するかと聞いた時、ジャークチキンを「作る」と言いたくても、ジャークチキンを「使う」と言いました。ジャークチキンというのはジャマイカ料理の一つです。友達の表情を元に、何を言ったか気づきました。そういう間違いを頻繁に犯しました。けれども、前向きな気持ちで一步步動けるように、常に自分自身を励ました。まさに、「失敗は成功のもとである」のことわざを自分自身に言い聞かせる日々でした。

そして、ある時、日本語を勉強することは、自分を成長させることにつながると気づいたのです。日本語の勉強に身を投じてみるにつれて、習得した新しい語彙と語句で徐々に自分の視野は広がりました。つまり、日本の文化を学びたいとか、日本人の友達を作りたいとかだけではなく、自分磨きが重要になってきました。たまに日本語の勉強をおろそかにする時もありますが、私は決して諦めたり、挫けたりしません。

正直なところ、まだまだ日本語はしっかり話せません。でも、根性とやる気がある限り、いつか日本語でどの分野の話題でも流暢に話せるようになると信じています。

永遠に日本に住むのは私の夢なので、日本語を流暢に話すのが自分の夢を叶えるための最初の一步です。今、私の人生はいい方向に向かいつつあると思います。日本語の勉強のおかげで毎日の生活が幸せな気持ちで送れるようになりました。これからも頑張って日本語の勉強を続けるつもりです。

以上、ご清聴どうもありがとうございました。

